



Motorsport Information

2005 年 7 月 6 日 (水)
フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

フォルクスワーゲン、FIAクロスカントリーラリー ワールドカップを制覇 **第4戦ラリーオリエントで1-2フィニッシュ**

2005 年 7 月 2 日、ウォルフスブルグ

フォルクスワーゲンのワークスドライバー、ブルーノ サビーとコドライバーのミシェル ペラン組が、2005 年 FIA クロスカントリーラリー ワールドカップ第 4 戦ラリー オリエントで優勝し、チャンピオンシップのタイトルを獲得しました。同シリーズは、全 6 戦から構成されていますが、サビー組はラリー オリエントを含めてすでに 3 勝を記録して 56 ポイントを獲得し、2 位ジニール ドゥビリエ組との差が 34 ポイントに拡大、残り 2 戦では逆転不可能となったことから同カップ獲得が決定しました。なお、トルコが舞台となったラリー オリエントは、サビー組に続いてドゥビリエ/ティナ ターナー組が 2 位で完走、レース トゥアレグが 1-2 フィニッシュを記録しています。

ステージ 1 ではドゥビリエが首位を奪い、ステージ 4 以降はチームメイトのサビーがラリーをリード。3 度のステージ ベストタイムをマークしながら、首位を譲ることなく、2 位ドゥビリエに 1 分 16 秒の差をつけてトップでゴールしました。ドゥビリエは、レース トゥアレグのドライブが今回で 2 度目ですが、モロッコのデビュー戦と同様、2 位でフィニッシュしています。レース トゥアレグは、開幕戦ポール デ バンパス(アルゼンチン)、モロッコラリーに続いてラリー オリエントでも優勝、今季 4 戦 3 勝の好成績を残しています。総合成績でも、ドゥビリエは 22 ポイントを獲得して、ブルーノ サビーに続く 2 位につけています。

2004 年ダカール ラリーで実戦デビューを飾ったフォルクスワーゲン トゥアレグ プロトタイプ(レース トゥアレグ)は、2005 年 3 月のシーズン開幕以来、3 度の総合優勝を記録し、うち 1 回は表彰台を独占、さらに今回は 1-2 フィニッシュという圧倒的な強さを示しています。また、2004 年 1 月からの累計では、9 戦に参戦して 10 度の表彰台を獲得した他、21 回のステージ ベストタイム、21 日のラリーリーダーを記録、TDI ユニットのパフォーマンスを遺憾なく発揮しています。

フォルクスワーゲンにワールドカップをもたらしたサビーは、自身でもその長いキャリアの中でも最高峰に位置づけられるタイトルを手中に収めました。コドライバーのペランは、クロスカントリーラリーのスペシャリストと言べき存在であり、1993 年以来、23 度の優勝と 4 度のコドライバー ワールドカップを獲得しています。そして今年は、フォルクスワーゲンのクロスカントリーラリー プログラムに加わり、またひとつタイトルをつけ加えることになりました。

クリス ニッセン(フォルクスワーゲン モータースポーツ ディレクター)

「チームは長い間、一丸となってこの成功を目指してきました。ファクトリーで働くスタッフをはじめとして、フォルクスワーゲン全従業員に感謝の意を表します。トゥアレグは非常に信頼性の高いマシンであり、これまでメカニカルトラブルによるリタイアは 1 度も経験していません。2005 年ダカール ラリー以来、チームもドライバーも大きく前進しているという手応えを感じています。その結果、今年のクロスカントリーラリー ワールドカップで圧倒的な強さを発揮し、2 戦を残してワールドカップを手にすることができました。プログラムがまだ立ち上がって間もないことを考えると、快挙と言っても過言ではないでしょう。これからの 5 ヶ月もハードワークを継続し、2006 年ダカール ラリー以前にいっそうのパフォーマンス向上を達成したいと考えています。」

#200 ブルーノ サビー (仏)総合順位:1 位

「フォルクスワーゲンにタイトルをもたらすことができ本当に嬉しく思っています。私自身にとっても非常に素晴らしい瞬間でした。今の気持ちを言葉で表すのは簡単ではありません。私のキャリアの中でも、シーズンを通じてワールドカップに参戦するのは今年が初めてです。フォルクスワーゲンがこのチャンスをくれた時、天

にも上る気持ちでした。タイトル獲得という目標に向けて一生懸命頑張ってくれたメカニックに感謝の気持ちを伝えたいですね。また、コドライバーのミシェル ペランにも『ありがとう』と言いたいです。ペランは、経験とプロ意識の点で飛び抜けた存在であり、人間としても完成されています。さらに、ラリー オリエントのオーガナイザー、ルネ メトジェは、ドライバーとしてもオーナゲイザーとしても素晴らしい経験の持ち主であり、私も個人的に尊敬しています。ラリー オリエントは、草原を駆け抜けるイベントであり、砂漠ステージの多いワールドカップの中でひと際異彩を放っています。2006 年ダカール ラリーは、ギニアを通過することになるので、今回の経験を活かせると思います。特に草の多く、特異なキャラクターを持つ路面を走行した経験は、今後、フォルクスワーゲン チームのメリットになるでしょう。」

#201 ジニール ドゥピリエ(南ア)総合順位:2 位

「素晴らしいラリーでした。ブルーノ サビーとフォルクスワーゲンがタイトルを獲得したことを嬉しく思っています。チーム全員がよい仕事をしました。個人的にも、2 位完走できたことがハッピーです。最終日は全開アタックができましたが、タイヤトラブルでタイムをロスしてしまいました。そうは言っても、モロッコよりもいいかたちでラリーをこなすことができました。左足ブレーキングも自分のスタイルに取り入れられましたし、トゥアレグの特性も掴めてきました。マシンはもちろん、チームの特徴もわかってきました。今後、ディテールを若干改良すればダカール ラリーにも対応できると思います。ほんの少しの改良で、ドライブがかなり楽になるはずですよ。ここまでの戦いで走行距離を伸ばせたこと、同時に素早くチームに慣れたことも嬉しく思います。ブルーノ(サビー)とも非常にいい関係で仕事をしています。完全な協力体制でラリーを戦っていますよ。」

ラリー オリエント(TR)2005 年 6 月 26 ~ 7 月 2 日暫定結果

順位	チーム	車両	合計タイム
1	ブルーノ サビー / M. ペラン	フォルクスワーゲン レーストゥアレグ	18 時間 46 分 43 秒
2	ジニール ドゥピリエ / T. トーナー	フォルクスワーゲン レーストゥアレグ	+ 1 分 16 秒
3	ジャン ルイ シュレッサー / A. デブロン	シュレッサーフォード	+ 15 分 14 秒

FIA クロスカントリー ワールド カップ、ドライバー順位*(全 6 戦中 4 戦終了)

- 1 位ブルーノ サビー 56 ポイント
- 2 位ジニール ドゥピリエ 22 ポイント
- 3 位ユタ クラインシュミット 19 ポイント

(* 暫定ポイント、FIA の確認が必要)

最新のフォルクスワーゲン モータースポーツの情報はwww.volkswagen-motorsport.net (英)にてご覧頂けます。